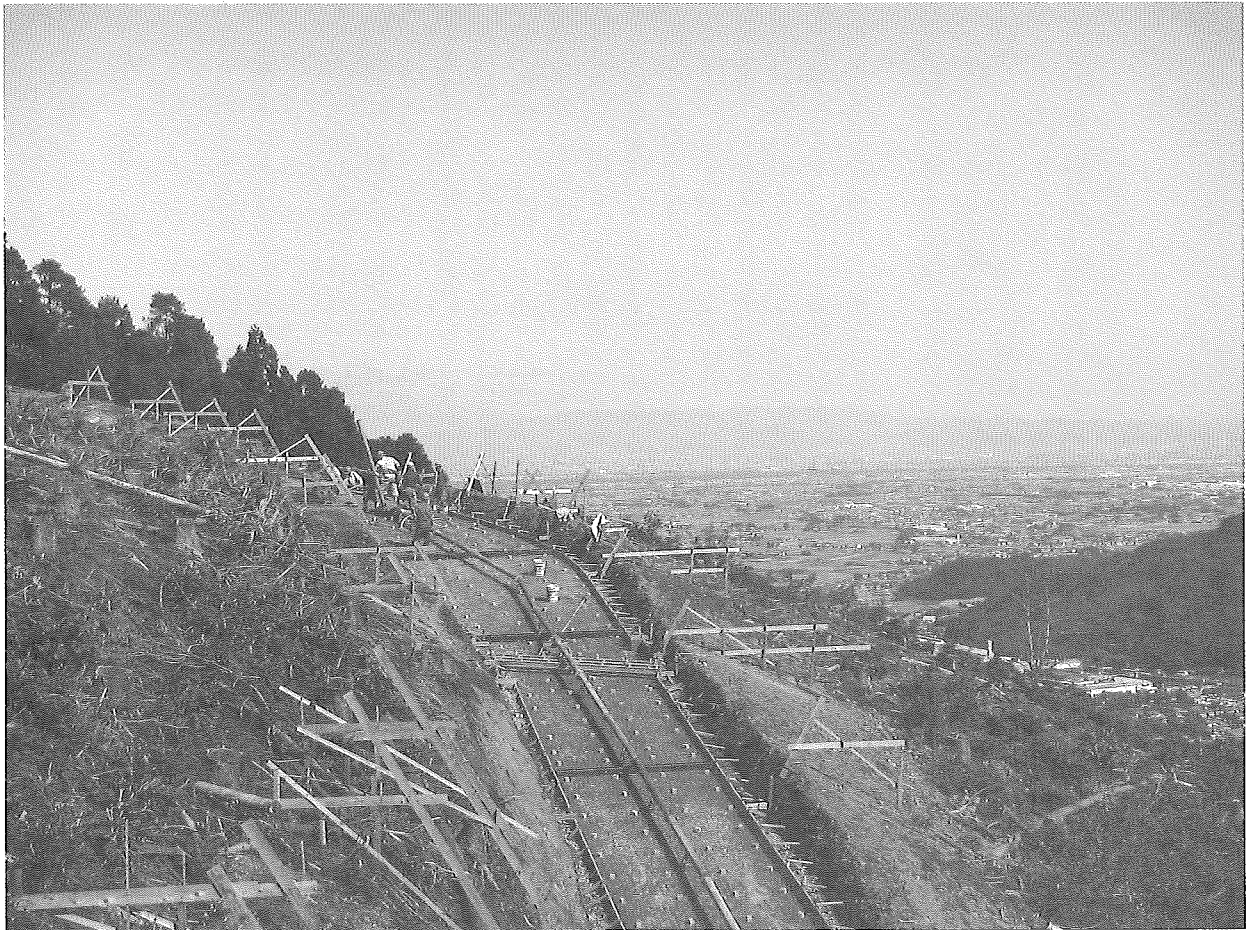


林業ぐんま



平成29年度森林土木写真コンクール（林業専用道 下三波川線）

目次

会長・環境森林部長挨拶	1
林政情報	2
・平成29年度群馬県建設工事表彰 普及コーナー	3
・ぐんま林業学校 普及の現場から	4
・年間四十万㎡にむけて 各地のたより	5
（渋川）県有林整備パートナー事業 （赤城県有林森林整備活動の実施） （西部）烏川流域（源流部）森林整備推進 協定に基づく技術交流会について （藤岡）わな初心者講習会の開催 （富岡）木材加工施設の生産性強化を支援 （吾妻）安全第一を肝に命じて （利根沼田）「環境と森と木のまつり」を開催 （桐生）間伐等の生産性向上のための 研修会を開催しました	9
地域を担う人	9
齋藤 勲さん 藤井 達さん 井上 豪さん 笠原 豊さん	11
読者からの投稿	11
群馬県産のスキの祖先と育種について 群馬県森林・緑整備基金だより	13
・分収林の経営改革 トピックス	14
・第42回群馬県児童生徒木工工作コンクール ・林業現場における労働安全巡回指導 ・おしらせ	15
きのこ品評会 群馬県農林水産業関係機関成果発表会 森林・林業を支え、みどり豊かな 郷土群馬づくりに貢献する	15

新春



群馬県林業改良普及協会長

新井 雅 博

新年おめでとうございます。皆様には、常日頃から当協会の運営につきまして、格別なるご支援ご協力を賜り、感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

昨年も、九州北部豪雨で大きな被害が出るなど各地で災害が多発しています。また、北朝鮮の相次ぐミサイル発射や核実験など、先の見通しのきかない緊張感の続いた一年でした。

そんな中、日本の木材自給率が30年ぶりに約35%に回復したことが森林・林業白書で報告されています。群馬県においても関係者の尽力で素材生産量が増加してきており、今年から本格的に稼働する前橋バイオマス発電所の需要などが拍車をかけて、今後も大きく伸びることが期待されています。また、原木といっただけの生産量が回復傾向に戻るなど、明るい兆しが見られます。

しかしながら、木材価格は依然として低迷を続けております。皆伐して木材を利用し、植栽して育て、また伐採して利用するという、本来あるべき林業の循環サイクルは戻ってきておりません。国や県の様々な助成制度に支えられて何とか回っていますが、その恩恵も、なかなか森林所有者までは届かないのが現状です。さらに、成木、幼木に限らずクマ、シカなどの獣害が深刻度を増してきており抜本的な対策が急がれます。素材生産量の増大に対応するためには、担い手である人材の育成にも力を注いでいかなければなりません。

このような中、国における「森林環境税」の導入が実現しようとしていますが、歓迎すべき制度の導入だとは思いますが、群馬県独自の「緑の県民税」も関係者の大変な尽力で実現した制度で、使い勝手がよく大変好評です。是非とも存続できるよう力を尽くしてまいります。

安定した政権、雇用の改善、企業の収益増加、賃金の上昇、東京オリンピックなど、ますます明るく、活性化していくことが期待されます。そして、世界が平和で発展が継続することを願わずにはいられません。

結びに、会員並びにご家族の皆様のご健勝でご活躍されますようご祈念申し上げます、新年にあたってのあいさつとさせていただきます。



群馬県環境森林部長

須藤 雅 紀

新年あけましておめでとうございます。

群馬県林業改良普及協会の皆様には、本年が幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は、「みなかみ」地域のユネスコエコパークへの登録や、「上野三碑」がユネスコ「世界の記憶」に登録されるなど、本県の自然や歴史遺産が世界に認められた大変喜ばしい年となりました。

県では、県政の羅針盤である群馬県総合計画や群馬県版総合戦略に基づき、県民の皆様が豊かで安心して暮らせ、将来にわたり住み続けたいような「魅力あふれる群馬」の実現に向けて、全庁をあげて取組を進めています。

森林・林業施策につきましては、群馬県森林・林業基本計画に基づき、「林業ぐんま」の実現に向けて取組を加速しております。

具体的には、集約化専門官を中心に、関係機関との情報共有や森林所有者の合意形成にしっかり取り組み、施業の集約化や木材の安定供給体制の整備を重点的に進め、川上から川下まで木材のサプライチェーンを構築していきます。また、今年の2月には素材生産量の更なる増加へとつながる前橋木質バイオマス発電所の本格稼働が予定されており、これまで利用が進まなかった低質材需要の拡大を推進します。

こうした取組を進め、本県の豊富な森林資源を最大限に活用し、林業の自立と成長産業化を実現したいと思っておりますので、皆様の御協力をお願い致します。

また、本県のこの産業におきましては、原木しいたけの生産量が二年連続で増加するなど、きのこ産業全体に明るい兆しが見えてきています。安心安全を基本に、県民の皆様が喜んで頂けるよう、きのこの生産指導に引き続き全力で取り組んで参りますので、関係者の皆様のご協力をお願い致します。

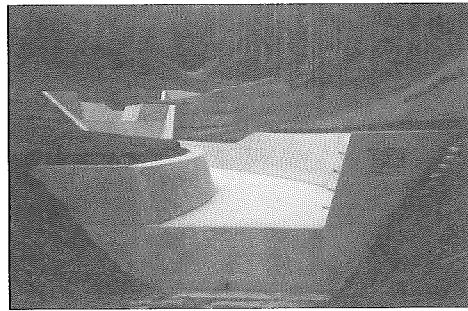
本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、本県の林業・木材産業、及びきのこ産業の発展のために努力して参りますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

結びに、皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

林政情報

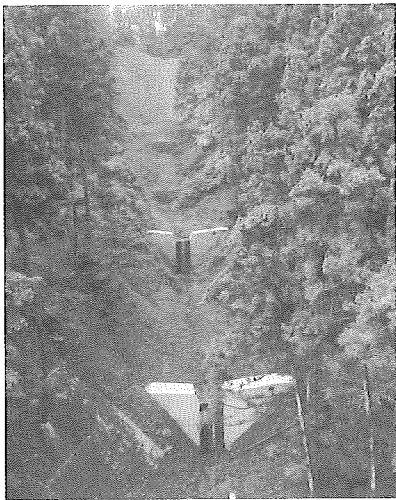
平成29年度 群馬県建設工事表彰

群馬県建設工事表彰は、県民の生活及び経済活動等の基盤となる社会資本整備を適切に推進するため、県が発注した建設工事等について優れた技術により施工した建設業者等を表彰し、品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施

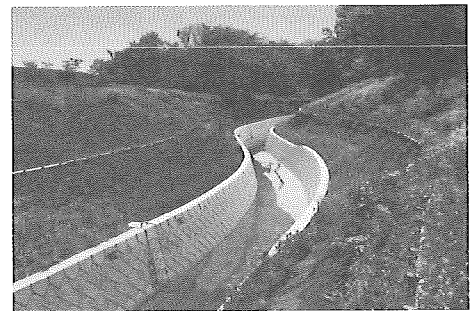


①北群馬郡榛東村山子田(峰林)

秀な技術により施工した建設業者等を表彰し、品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施



②安中市松井田町新井(西天神)

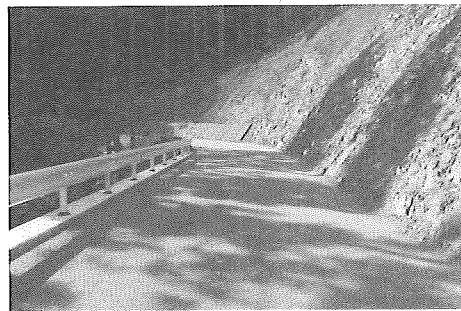


③利根郡昭和村生越(梨木平)

工技術の向上に資することを目的として、毎年、知事表彰、部長表彰、所長表彰を行っております。

環境森林部

発注工事に係る平成二十九年度の表彰工事は、二十八年度に完成した契約金額五〇〇万円以上の対象工事二百七十三件の中から、それぞれ品質管理・出来形・出来映え等の審査基準によ



④梅田小平線(鋼足開設工事)

り、各審査会で厳正な審査が行われ、知事表彰五件が九月五日、部長表彰六件が九月十三日、所長表彰七十二件は各発注事務所の表彰式で受賞の榮譽に輝きました。

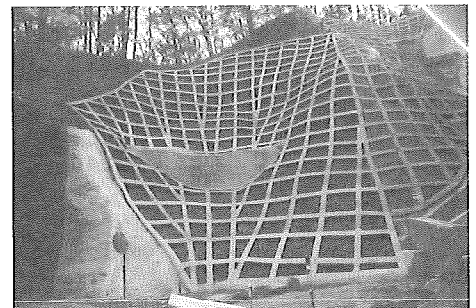
平成29年度 群馬県建設工事表彰一覧表(知事・部長表彰)

1 知事表彰 5箇所 5社

施 工 者	技術者名	事務所名	写真番号
勝野建設(株)	勝野政和	藤川博一	①
荻原工業(株)	荻原哲也	石井雅人	②
石坂建設(株)	諸田光二	茂野義則	③
坂本建設(株)	新井茂男	畑和彦	④
株式会社アイビック	加藤勝弘	前村栄一	⑤

2 部長表彰 6箇所 6社

施 工 者	技術者名	事務所名
田子林業(株)	田子元幹	中川清治
荻原工業(株)	荻原哲也	石井雅人
塚本工務店	塚本定夫	水落美文
神戸土木(株)	神戸康宏	栗原昭一
千島工務店	千島三亀夫	山口慎仁
椎坂建設	小林好	田村 稔



⑤桐生市黒保根町宿廻(田代)

受賞された皆様によりお祝い申し上げます。に、今後益々の御研鑽をお願いします。(森林保全課)

ぐんま林業学校

林業の成長産業化を目指し、「林業県ぐんま」を実現するためには、人材の確保・育成は重要な課題の一つです。県では、この課題解決に向けた事業を実施しています。

○人材確保のための事業

・ぐんま森林・林業ツアー(女子学生編)

首都圏の若年女性に、森林・林業への関心を深めてもらい、林業への就業を促進するために実施しています。今年度は、九月一二日に開催し、一五名の方が参加されました。高性能林業機械による間伐現場、製材工場の見学や、女性就業者との交流を図り、林業を身



間伐現場見学の様子

近に感じてもらいました。

また、県内高校生を対象とした同様のツアーも行っています。

○人材育成のための事業

・高性能林業機械技術者養成研修

高性能林業機械の普及に伴い、効率的かつ安全な機械運転操作が求められます。このため、現場従事者を対象に、基本的な機械操作・作業計画並びに機械メンテナンス等について研修を実施しています。今年度は、十一月十三日から五日間で行い、六名の方が受講されました。

高性能林業機械の養成研修は、オペレーター育成研修から数えると二二七名の方が受講し、県内各地の現場で活躍をされています。



高性能林業機械研修の様子

本県における高性能林業機械の普及啓発にも繋がっていると考えられます。

・森林作業道作設研修

森林作業道の作設には、地域の实情にあった高性能林業機械の活用や効率的な作業システムの構築を図るため、災害発生に十分配慮した丈夫なことが求められます。そういった作設技術を有するオペレーターを養成するための研修を実施しています。

今年度は、十月と十一月に五日間の日程で二回実施し、九名の方が受講されました。



森林作業道研修の様子

今回紹介した事業以外に、林業基礎研修、森林施業プランナー研修等も行っています。次年度以降も実施する予定ですので、積極的な参加を期待しております。

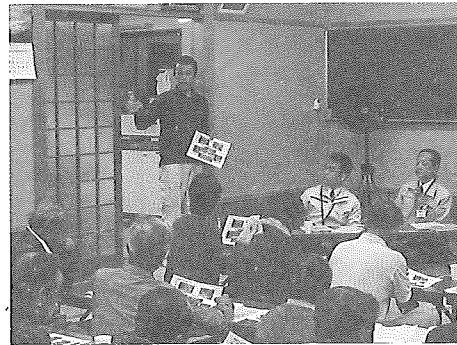
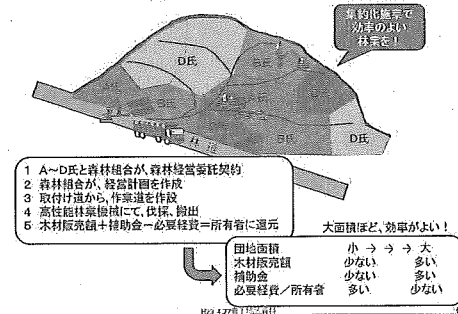
普及の現場から

年間四十万³m³に向けて

年間四十万³m³の素材生産量を達成するためには森林経営計画の作成が重要な役割を占めています。これにより間伐施業の集約化が図られ、低コスト・省力化等により各事業体や森林所有者の収益を向上させることができま

す。当環境森林事務所でも集約化専門官の陣頭指揮により、東吾妻町役場と連携して吾妻森林組合に対しその作成指導を行っている。まず、森林組合の総代会にて間伐の意義や集約化の重要性、森林経営計画の

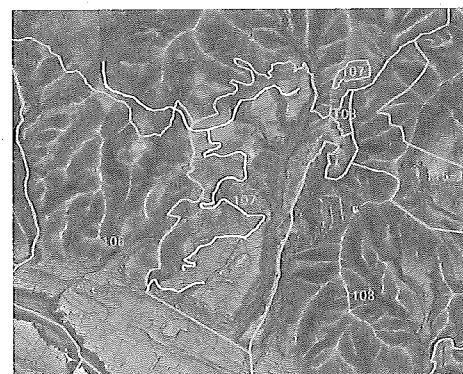
集約化施業のイメージ



座談会等での資料の一つ

座談会の状況

作成、補助金の活用などを説明しました。東吾妻町の姉山地区において、説明に関心を持った森林所有者の方達と個別に打ち合わせ、所有森林の現地調査を行って、森林の状況や作業道の作設の可能性などを把握し、条件の良い森林であることがわかりました。その方達には近隣の知り合いに声をかけてもらい、関心を持った数人を対象とした座談会を開きました。



赤色立体図(提供:利根川水系砂防事務所)



所有者の承諾状況

更にこれらの取り組みを何回か繰り返して森林所有者から承諾を得て、施業団地を大きくしていきましました。これら作業と並行して、森林簿や森林計画図、赤色立体図を表示させたGISを活用して施業図面を作成し、間伐地のピックアップ、当該地の作業道の配置の検討をしました。

森林簿からは所有者や樹種、林齢を、森林計画図からは森林の大きな範囲を、赤色立体図からは地形や既設作業道等の配置を判断しました。

当地区では住民が積極的に近隣に声をかけて、当初の参加者は3人であったが、最終的に54人から施業の承諾を得ることができました。

これらにより吾妻森林組合による森林経営計画の作成、東吾妻町による認定がされました。

現在、吾妻森林組合は同手法により、同町内、厚田地区の施業集約化に取り組んでいます。

今後の森林経営計画の作成については、ますます発展していくICT技術等を積極的に活用し、様々なアイデアを出し合って効率的・省力的に行うことを指導したいと考えています。

これにより吾妻森林組合の「森林経営計画作成事例集」のようなものが作成できれば今後の取り組みの指標となり、作成マニュアルになっていくことを期待します。

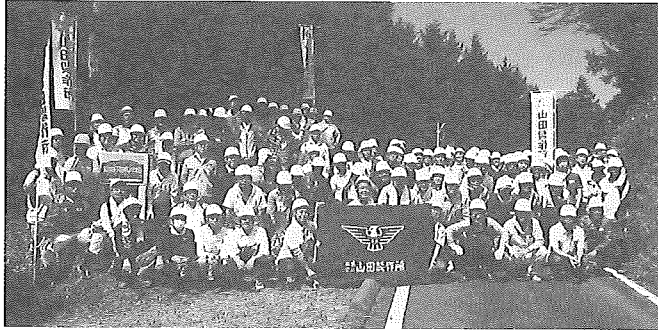
(吾妻環境森林事務所通信員)

の便り

県有林整備パートナー事業 赤城県有林森林整備活動の実施

県有林整備パートナー事業は、企業・団体の皆様からのご寄付により、地球温暖化防止など森林の機能向上を図ることを目的に、県有林内にパートナー森林を設定して、その整備や保全を行うものです。

平成二十九年九月九日(土)前橋市富士見町赤城山地内の赤城県有林において、伊勢崎市に本社がある(株)山田製作所の社員約百人による森林整備活動が実施されました。



(株)山田製作所と群馬県は、平成二十八年九月一日から平成三十三年八月三十一日まで五年間の実施協定を結びました。

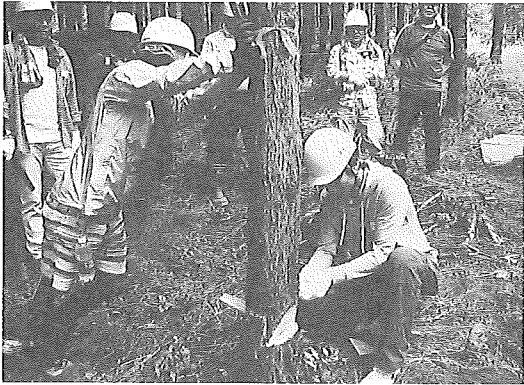
協定森林は、一・二六ヘクタールのヒノキ林で、「山田製作所の森」という名前を標示した看板が赤城山へ至る道沿いに設置されています。

す。

当日の活動では、会社から現地までのバスの中で、森林の公益的機能や森林を健全に育てるための手入れや間伐について説明があり、現地では、間伐作業と草刈作業を実施しました。

参加者を間伐作業と草刈作業の二班に分けて、間伐班は、さらに五つのグループに分けて、一グループ約十人で手のこにより、ヒノキの間伐作業を行いました。

間伐作業は、立木を安全に伐倒するため、受け口と追い口による安全な伐倒作業を実施しました。草刈作業は、林道沿いに茂った雑草を手鎌で刈取りました。



(渋川森林事務所通信員)

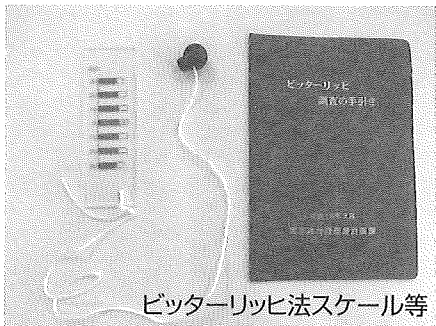
森林整備活動が終わったあとは、「赤城ふれあいの森」でバーベキューを予定していたので、汗を流した後、一日となったことと思います。

烏川流域(源流部)森林整備推進 協定に基づく技術交流会について

平成二十九年十一月七日、磯村産業株式会社、群馬森林管理署、西部環境森林事務所の三者で技術交流会を開催しました。

この交流会は、協定で定めた連携・協力事項として行ったものです。目的は、各協定者職員の技術力の向上と交流です。

内容は、班毎に分かれての森林計測の演習と大径木伐採・高性能林業機械の実演でした。森林計測の演習では、二十四名の参加者が5班に分かれて目視、方形標準地、円形標準地(釣り竿等を水平に廻して半径4m若しくは5mの円形を設定し、その区域内を調査)、ビッターリッヒ法で調査を行い各手法について意見交換を行いました。



ビッターリッヒ法スケール等

森林管理署職員からは、円形標準地の簡易性について評価する声が多く聞かれ、環境森林事務所職員からは、普段行わないビッターリッヒ法による材績調査への関心が高かったようです。ビッター

リツヒ法は、簡易な方法で材績を推定出来るので、素材生産量の試算や森林台帳の修正等に有効と思われます。なお、関東森林管理局は、ピッターリツヒ法に用いるスケールと手引き書を独自で作成して使用しています。

大径木伐採の実演では、磯村産業（株）のフォレストワーカーが、優良素材展示会に出品する様な樹齡約百年のスギ大径木を、根張切り、芯切り、追いづる、くさび打ちといった一連作業で倒す方法を見学しました。群馬森林管理署所管の国有林にもこの様な大径木はもう無いそうです。

高性能林業機械の実演では、同じく磯村産業（株）のフォレストワーカーにより、スイングヤーダによる木寄せ、両刃のハーベスタによる伐倒、造材を見せていただきました。両刃のハーベスタはヘッド先端側にも刃が付いており、二股部分等の切落し時に便利であるとの説明がありました。

今回の技術交流会では、演習等を通じて三者の持っている情報や技術等に違いが有ることを認識しました。

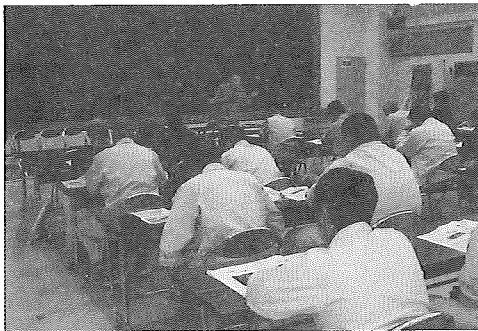
また、各参加者同士で情報交換が行われ、大変有意義な技術交流会となりました。今後、造林、保育、伐採、獣害対策等の技術交流を図ってまいります。

（西部環境森林事務所通信員）

わな初心者講習会の開催

「わな初心者講習会」が十月五日、多野郡神流町のこいこいアイランド会館で開催されました。この講習会は、わな猟捕獲技術に関する初歩的な講習会として、わな猟免許取得者や、これからわな猟免許を取得しようとする方向けに、毎年県内二箇所で開催しているもので、今回は、わな猟免許取得者のほか、市町村職員や森林組合職員など、約四十名の参加がありました。

講義は県猟友会の指導により、前半がイノシシやシカの行動特性についての講義、後半は箱わなやくくりわなの設置体験が行われました。くくりわなの講義では、参加者全員が五つの班に分かれて、実際に林内で仕掛け方を体験しました。参加者の中には自身の設置テクニクについて猟友会員と熱心に意見交換している方もいました。

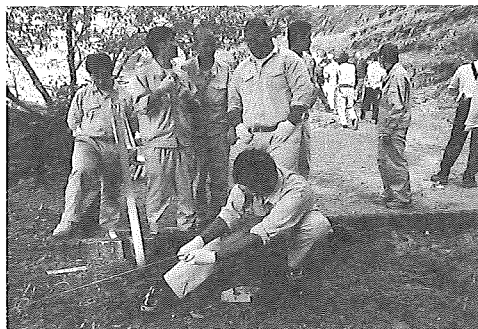


県猟友会員による講義

今回は、鳥獣被害の深刻さに関心を寄せていただいている県立藤岡工業高校の生徒六名の参加もありました。生徒の一人は「自分是不器用なのでわながうまくかけられませんが、初めての体験だったので楽しかったです。」と話していました。

同校では「藤岡環境活動プロジェクト二〇一七」と題して環境問題を広くとらえ、多様な環境活動と環境学習に取り組んでいます。

今回参加の生徒は選択科目の「環境工学基礎」で鳥獣害対策を学んでおり、



わな設置の実習

今年度のわな猟免許試験では既に二名の合格者を出しています。同免許の取得可能年齢は二年前に「十八歳以上」に引き下げられましたが、高校生での取得は県内初めてです。今後も免許取得を目指す生徒さんもいるとのことであり、将来を担う貴重な人材として大変期待しています。

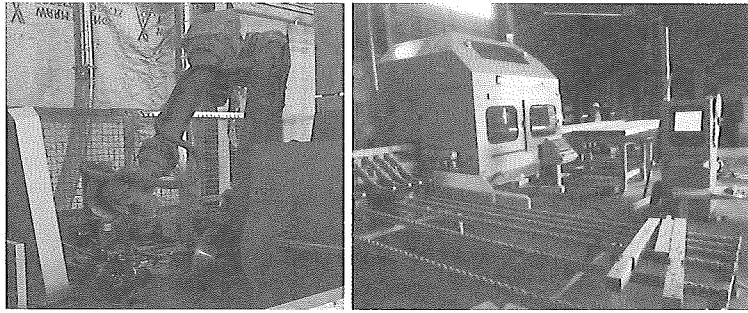
（藤岡森林事務所通信員）

の便り

木材加工施設の生産性強化を支援

県では平成31年の素材生産量を40万m³を目標に、木材の生産から加工・流通・利用の、いわゆる川上から川下までの総合的な施策に取り組んでいます。

川下に当たる県内の製材工場は平成26年度の時点で105箇所ありますが、このうち原木消費量が1万m³以上の工場は3社にとどまります。また、加工する素材15万3千m³の



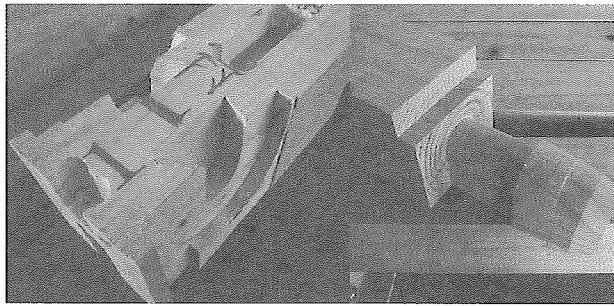
ロボットアーム(左)と多種加工機(右)

95%を国産材が占めている一方、県内で流通する製材品の国産材率は25%と外材が主体となっているのが現状です。

県が目標とする素材生産量を達成し、さらに大消費地である首都圏に近い好立地を生かして県産材製品を

流通させる「林業県ぐんま」を実現するには、外材に対抗できる安価で品質の高い製品を安定的に供給する生産加工体制が求められます。

甘楽町にある富岡製材協同組合(富岡プレカッタ)では群馬県合板製材生産性強化対策補助金を活用し、最新鋭のプレカッタ加工施設(多種加工機)を導入しました。



複雑で精度の高い加工を効率的に実現

導入した加工機は多関節ロボットを装備し、先端部のアタッチメントを交換しながら材を動かさずに上下・両側面の切削加工ができ、精度の高い加工を効率よく行うことができます。

組合では当施設により間伐材等の利用量を平成27年度の約5千m³から平成31年度には7・1千m³と1・4倍以上とすることを目標としています。

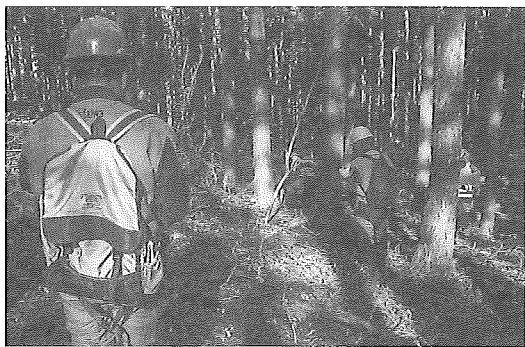
ています。事務所としても、地域の森林資源を活用する県産材のサプライチェーン強化の取り組みを引き続き支援していきます。

(富岡森林事務所通信員)

安全第一を肝に命じて 合同巡回指導を実施

平成二十九年十二月四日に吾妻環境森林事務所管内の吾妻森林組合と高山林業株式会社の間伐施業地において、伐倒作業を対象にした「林業現場における合同安全巡回指導」を実施しました。

どちらの事業体の従事者も二十歳台の林業の将来を背負って立つ若者でありますが、伐倒作業に関しては素晴らしい技術を持っていました。講評においても、作業の良い点をほめるものが多く、指摘はあまりありませんでした。



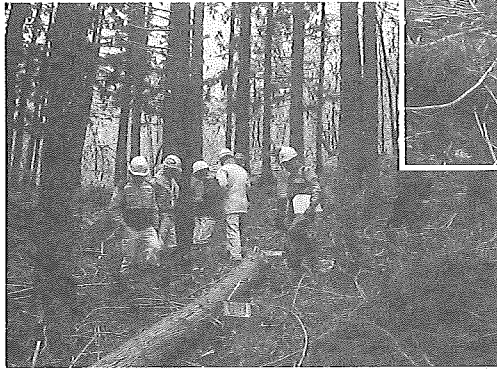
吾妻森林組合の伐倒の点検状況

しかし、思い返してみると、今まで林業関係の事故の原因は、経験を積んで慣れや自分の技術を過信してしまい、うっかりミスによる発生が多くなっています。事故の撲滅には、現場の確認・点検をして、危険箇所・危

除作業を洗い出して対応することが欠かせません。そのためにも「もつと現場に行かなくては」という思いが強くなりました。指導されたのは私だったのかもしれませんが。指導され今後は伐倒作業の指導はもとより、林業機械の安全作業の指導や、事故が起きてしまった時の応急措置、連絡系統の整備の指導にも力を入れていきたいと考えています。



チェーンソー作業



高山林業の作業現場

(吾妻環境森林事務所通信員)

「環境と森と木のまつり」を開催

八月十一日、沼田市と川場村にまたがる「県立21世紀の森」の芝生広場を会場に、第2回山の日記念「21世紀の森まつり」と同時開催イベントとして「環境と森と木のまつり」が「環境と森と木のまつり利根沼田地区実行委員会」の主催により開催されました。

当日は不安定な天候で、時折霧に包まれましたが、凌ぎやすい一日となりました。「21世紀の森まつり」では歌手の庄野真代さんなどが出演することもあり、二千八百名と多数の来場者にお越しいただきました。

「環境と森と木のまつり」会場では、木製プレートに名前や絵を描いたり、しおり作り体験が行われ、子供達の人気呼び、熱心に参加していました。



稜線トレイル名称発表

また、木工工作・体験では木製品とふれあい、木材の良さを実感していました。環境のコーナーではロケットストーブの展示・実演を行うとともにパネル展示や、その解説を行い、地球環境保全の重要

性を多数の方にアピールしました。

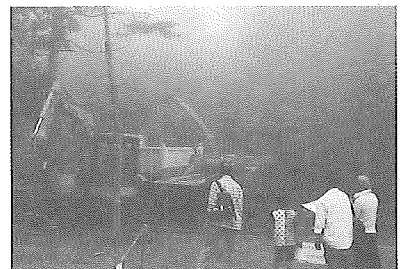
ステージでは、山の日記念トークが行われ、利根沼田森林組合長、利根実業高校生徒・トレイルランナー・緑の女神が登壇し、興味深い話に皆聞き入っていました。また、ぐんま県境稜線トレイル名称発表式典も行われました。



募金活動

とメッセージの「端葉翔子」の協力で「緑の募金活動」を行いましたので、緑化推進のため有効活用させていただきます。

(利根沼田環境森林事務所通信員)



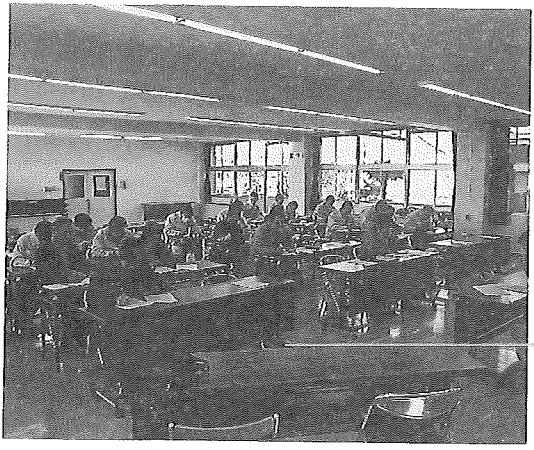
高性能林業機械実演

間伐等の生産性向上のための 研修会を開催しました

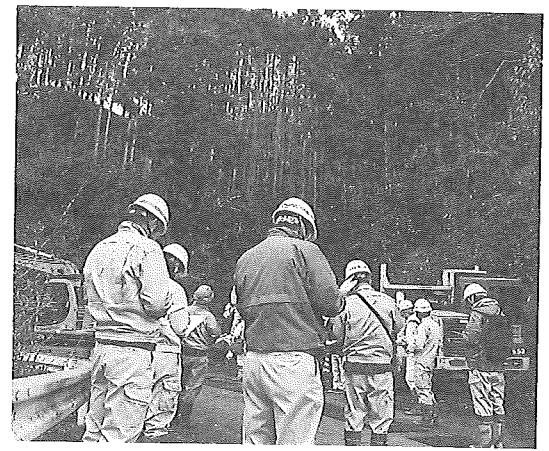
県では、素材生産量四十万m³を目標に施策を進めているところですが、更にその先の目指すべき姿である「林業県ぐんま」の実現のためには、労働力不足を始めとしたいくつもの課題を克服しなければなりません。

これらの課題への対応にあたっては、森林所有者の収益の増加、林業関係従事者が定着する賃金水準が必要で、木材価格が低迷するなか、収益を増大させるには、間伐等の作業効率を向上させることが必要だと考えられます。

桐生森林事務所では、十一月二十九日、管内の事業体を対象として、桐生市内で生産性の高い間伐（約8m³/人日）、皆伐（約15m³



室内での講演



現場視察

／人日）を行っている（株）栃毛木材工業（栃木県鹿沼市）の担当者を講師に迎え、研修会を開催しました。

室内の講演では、会社の森林経営方針や、計画的な施業地の確保、実際の施業方法、作業システム等について説明がありました。具体的な数字も示され、参加者の方からは非常に多くの質問が上がりました。

その後、現場に移動し、間伐と皆伐作業を見学しました。

今回は、細部にわたる説明をいただき、その内容は非常に分かりやすく、質問にも丁寧に回答いただき、今後の各事業体の生産性向上と管内の素材生産量増大にむけて参考になったと思います。

（桐生森林事務所通信員）

地域を担う人

四万林業協業組合

齋藤

つとむ 勲

一 趣味
音楽鑑賞

二 今後の抱負

フォレストワーカー研修で学んだ知識や技術を現場で活かし、更なる向上を目指して頑張っていきたいです。

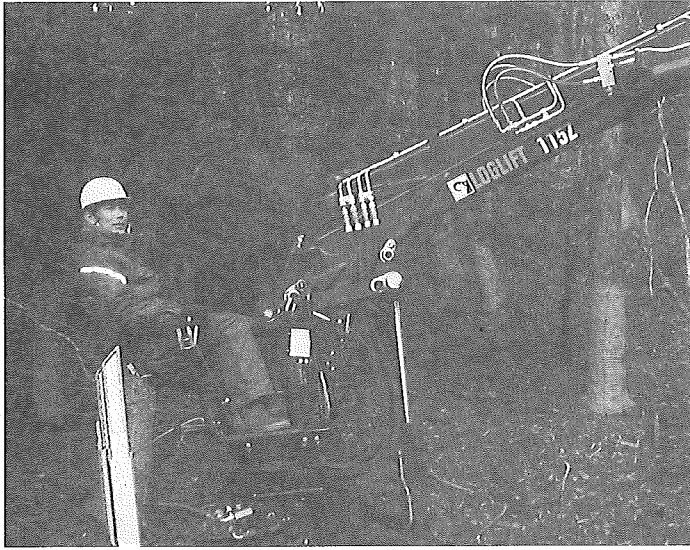


地域を担う人

赤城造林有限公司

藤井 達

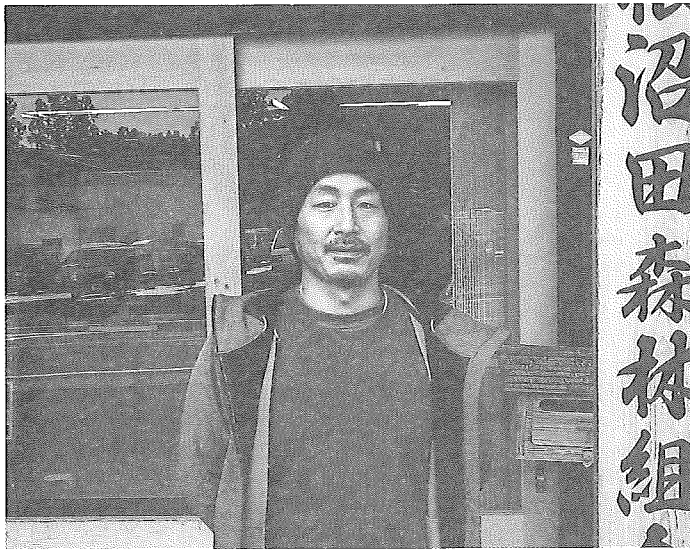
- 一 趣味
ゴルフ
- 二 今後の抱負
けがをしないように仕事をする。



利根沼田森林組合

井上 豪

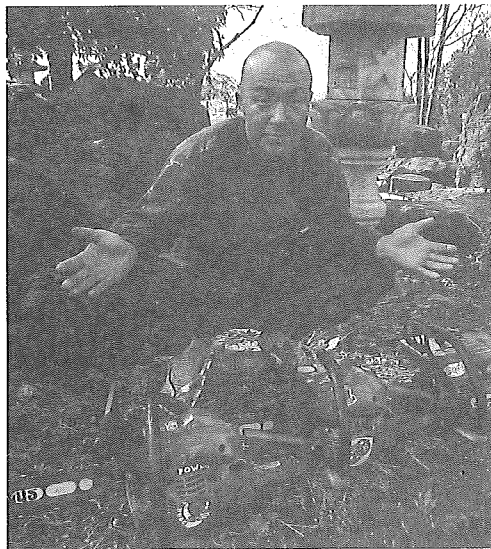
- 一 趣味
野球
- 二 今後の抱負
群馬県一番のオペレーターになって、森林組合及び群馬県の林業のために、頑張っていきたい。



有限会社 利根緑化

笠原 豊

- 一 趣味
晩酌・パチンコ
- 二 今後の抱負
私は、林業の中で最も好きな作業種が伐倒作業なので、伐採士という職人として誇りを持てるよう日々精進していこうと考えています。
チェーンソーのメンテナンスは怠らず、いつ何時でも最善な伐倒作業が出来るよう準備し、決めた場所へ必ず倒せるように腕を磨いていきたいです。
また、伐倒に関しての様々な技法を取り入れ、更なるスキルアップを図りたいです。そしていつかは、直径2m以上の大径木を伐ってみるのが夢です。
最後に、林業は大変きつい作業なので、作業員全員が明るく楽しく作業出来るよう場を盛り上げたいと考えています。



群馬県産スギの祖先と育種について

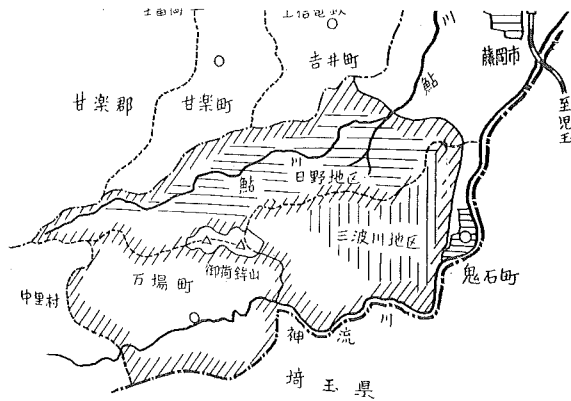


図-1 御荷鉾林業地域(1)
(市町村名は出版当時の名称)

本年は明治百五十年にあたり、群馬県産のスギについて、理解を深めるため、その祖先と育種事業について考察したい。

藤岡市の日野地域などは、御荷鉾林業地域と呼ばれ、林業が盛んであった。「御荷鉾の林業」(1)によれば、「明治初年から当時点在した天然スギの山引苗による僅かづつの造林が試みられた。明治28年には吉野地方より種子を大量に購入して造林に努めた。これが近隣町村に波及して、御荷鉾林業地域(図一)に発展した。苗木の植え付け本数はha当たり、スギ三千〜三千五百本、伐期は30年〜40年間伐は2回で足場丸太等を生産して中間収入をあげている。」と紹介している。

農林省林業試験場の報告(2)によれば、天然スギ(図二)は群馬県には存在しない。しかし、安中スギ並木は、一六〇四年〜一六八八年頃に植栽され、神社では信者によりスギ等が献植(妙義神社・榛名神社等)されている。

妙義神社を描いた「上野国妙義山真景」(3)(明治三十年)(図三)を見ると、中央にある大きなスギに比べ、周りのスギが小さいことがわかる。富岡製糸場を建造するため明治四年に伐採され、その後植栽されたと仮定してみると、大きなスギ以外は二十五年生程度のスギと推察される。

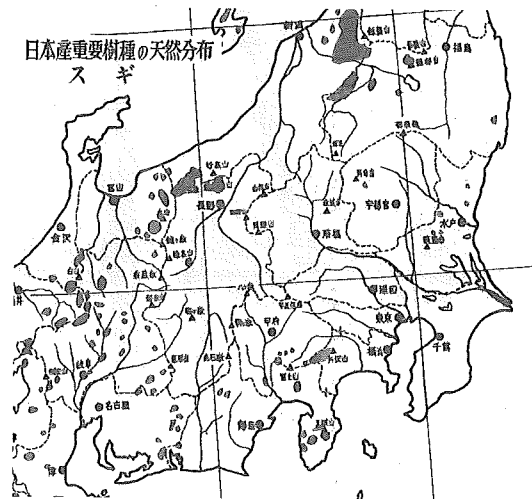


図-2 スギの天然分布

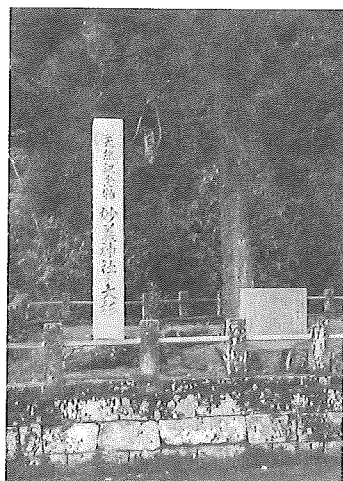


図-4 大杉の記念碑
(筆者撮影 妙義神社境内)

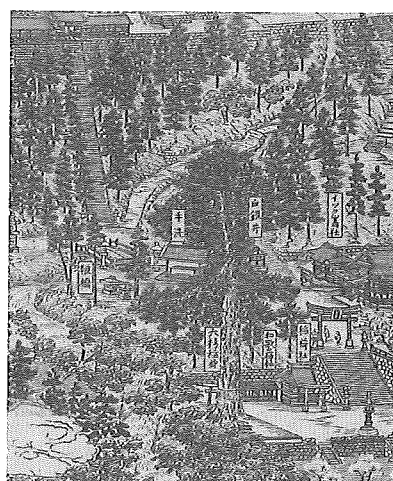


図-3 上野国妙義山真景
(原図の一部を表示)

中央に見える大きなスギは、残念ながら昭和四十六年一月に倒壊してしまったが、林業試験場などが協力して、現在その子孫が植栽されている。図四の石碑が歴史を記録している。

読者からの投稿

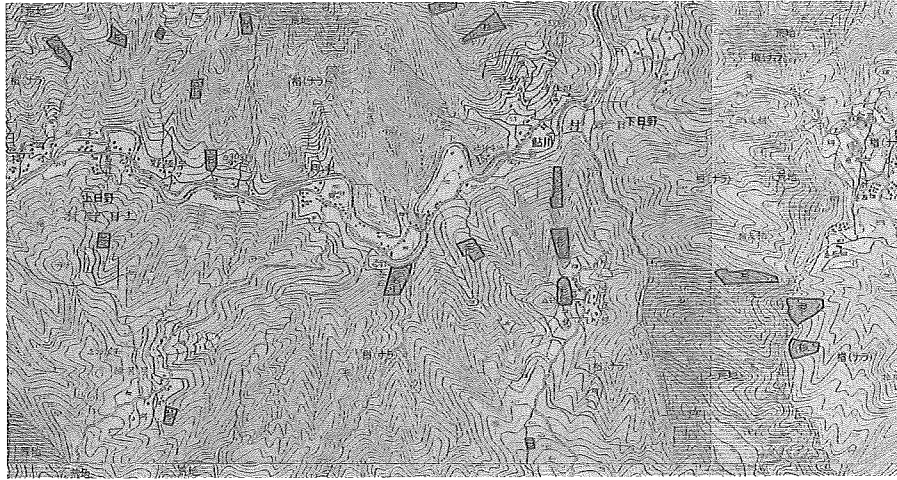


図-5 迅速計図(4)による土地利用状況(明治13~19年)
(注)杣(スギ)の区域を太線で強調、櫛(ナラ)、荒地は着色した。

明治13年~19年にかけて作成された迅速測図(4)の日野地区の一部(図一五)を見ると、スギが点在し、その他は、櫛、荒地(低い樹木等)であった。

明治29年~37年に榛名山麓に植林した木暮良太郎氏は、「スギ苗木は地元にて種子を採取した」(5)と記録している。

明治41年発行の「群馬山林会報」(6)で、淺香教多氏が、スギについて「種子は奈良県吉竹郡川上村より取り寄せ杉檜木質改善を計り」と記述しており、川上村は吉野林業発祥の地なので、群馬県のスギには吉野林業の系統が含まれている。

「群馬県の林業」(7)によれば、明治44年度から県内各地に苗圃を建設し、造林促進のため苗木を配布していたが、必要な本数を生産できず他県から移入していた。

群馬県では、昭和30年に林木育種事業に着手し、昭和51年から育種母樹林からスギ種子の採取を始め、昭和55年から配布を開始した。平成18年春からスギ花粉の少ない種子を配布している。九州地方などでは、挿木による苗木生産が多いが、群馬県では実生によることが多い。

現在、群馬県では、吉野系統が含まれる種子から成長したスギが高齢林になっている。また、群馬県林木育種場で採取した種子から育てたスギが伐期を迎えつつある。久保田正裕(8)は、「明治以後の造林事業の経験と研究によって、種苗の良否が造林の成績を大きく左右することが明確になった。」と報告している。種子を供給する育種事業は重要であり、

育種事業の成果を適時、発信することが必要と思われる。今後、育種と材質との研究成果が待たれる。

最後に、取材に快く応じていただいた林業試験場の中村博一氏には感謝したい。

引用文献

- (1) 御荷銜の林業(昭和42年) 群馬県林務部
- (2) 農林省林業試験場研究報告No.48(昭和26年) 日本産重要樹種の天然分布
- (3) 「上野国妙義山真景」群馬県立図書館資料(明治30年)

(4) 迅速測図は「農研機構農業環境変動研究センター」のホームページ上にある歴史的農業景観閲覧システムの画像データ

(5) 造林功労者実績 明治以降(昭和13年) 大日本山林会

(6) 群馬山林会報(明治41年) 群馬県山林会

(7) 群馬県の林業(大正14年) 群馬県山林会

(8) 久保田正裕(平成27年) 育種区と種苗配布区域について 森林遺伝育種

(寄稿) 前橋市在住 小島 正

分収林の経営改革 ～分収森林資産勘定の廃止と県長期借入金の中止～

基金では、昭和41年の造林公社設立以来継続してきた分収森林資産勘定と県からの事業資金の長期借入を平成28年度から取り止め、一般的な法人会計基準（単年度決算）へ切り替えました。

分収森林資産勘定は、費用（借入金）を森林資産に振り替える会計方法で伐採期まで常に収支が均衡し、その時々々の経営状況を的確に決算に反映できない面があり、深刻な林業公社問題が発生した一因とも言われています。

基金では、平成26年度包括外部監査の指摘を受け、経営の健全性や透明性の確保、また分収林の平均林齢が33年生に達して継続的な収益確保が見込めることなどの理由から会計基準を変更したものです。分収森林資産勘定の廃止は、全国初の事例かもしれません。

これに伴い分収林の事業執行規程や管理・経営方針の改定を行うとともに、高密度路網の整備と高性能林業機械を組み合わせた効率的な利用間伐の推進と山土場での有利な素材販売を、さらに積極的に努めて参ります。



間伐の状況（沼田市利根町「日向小沢」社営林）

基金では「林業公社の二の舞にはならない」を基本理念に、役職員一丸となって経営改革に取り組んでいます。限られた職員で事業を実施していますので、皆様にご迷惑やご心配をおかけする点多々あるかと思いますが、今後とも変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。

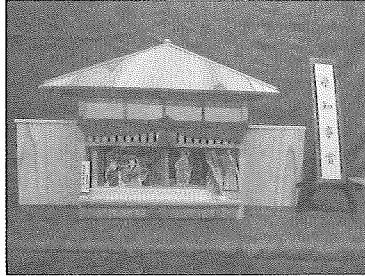
主な取り組みと実績

年度	分収森林面積 (ha)	利用間伐面積 (ha)	作業道開設延長 (m)	素材販売材積 (m ³)	事業資金 県長期借入金 (千円)	正味財産 増減額 (千円)
25	1,998	—	—	—	16,659	▲ 16,659
26	1,982	30	8,888	2,132	4,215	3,966
27	1,982	89	8,068	5,814	0	6,802
28	1,939	70	16,191	4,725	—	8,118
29	1,932	88	11,500	5,629	—	2,289

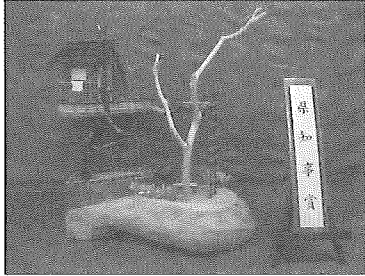
※正味財産増減額 H25～H27年度は、森林資産勘定の振替えを行わなかった場合の数字です。
※H29年度は、11月末現在の見込み数字及び予算額です。

ト リ プ ル ツ リー ハ ウス

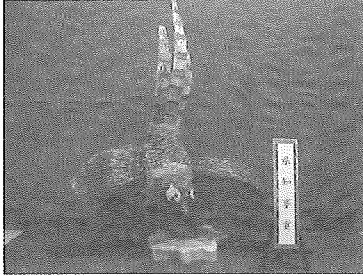
■県内の小・中学生に「木材の良さ（温かさ・加工しやすさ等）」を知ってもらうために、木工工作コンクールを開催しました。群馬県知事賞受賞作品は次の三点です。



「もしも桜森の舞台で津久田
人形芝居をしたならば」
茨川市立津久田小学校
中山 侑也（6年）



「トリプルツリー・ハウス」
安中市立臼井小学校
鈴木 遥夏（6年）



「キジ」
高崎市立中川小学校
猪内 孔盟（5年）

◆11月22日（水）～25日（土）まで昭和庁舎2階第1展示室・第2展示室にて
作品展示が行われ、延べ586人の来場がありました。

第四十二回 群馬県児童
生徒木工工作コンクール



安全指導の様子

群馬県では、林業における労働安全衛生の確保、林業従事者の健康の維持増進を図ることを目的として、総合的な労働安全衛生対策に取り組んでいます。
林業現場は、他産業と比べ厳しい条件下にあることから、労働災害の発生率も高い状況にあります。今年度も既に二三件の労働災害が発生し、その内一件は死亡事故でした。
今年度の巡回指導は、林災防群馬県支部並びに群馬労働局等と連携し、十四事業現場で実施しました。事業主や現場作業従事者の適正な作業方法の徹底、また安全意識の向上や安全のための組織的取り組みを推進し、引き続き労働災害の撲滅を図っていききたいと思います。

林業現場における
労働安全巡回指導

群馬県農林水産業関係機関成果発表会
群馬県農林水産業関係機関による最新の研究や普及活動についての発表会を行います。
林業分科会では、きのこ栽培技術の研究成果をはじめ、普及活動、獣害対策、種苗・木材に関する研究成果をご紹介します。また、県民ホールにて、パネル展示を行います。
日時：平成三十年二月七日（水）
午前十時～午後四時
場所：県庁二十八階（林業分科会）
問い合わせ先：林業振興課きのこ普及室
TEL027・226・3235

きのこ品評会
群馬県産きのこの品評会を開催します。二日間の日程で、審査（二十三日）、表彰式・展示品の即売・きのこ汁の試食（二十四日）が行われます。即売日には、厳選されたきのこをお買い求め頂けますので、是非足をお運び下さい。
日程：平成三十年一月二十三日（火）
・二十四日（水）
場所：群馬県庁一階 県民ホール北側
問い合わせ先：林業振興課きのこ普及室
TEL027・226・3234

お知らせ



手の届くところに 大自然のかおろを

株式会社 アイビック

代表取締役 加藤 勝弘

本社 富岡市下高瀬534

☎ : 0274-63-1124 FAX : 0274-63-0176

東京本社 東京都足立区舎人5丁目18番25号

☎ : 03-3899-2886 FAX : 03-3855-5625

平成三十年一月一日 発行

群馬県リサイクル緑化協会会員 ISO9001 認証取得



上毛緑産工業株式会社

代表取締役 高橋 範行

◆ 本社 〒370-3607 群馬県北群馬郡吉岡町小倉 827-87 TEL 0279-54-7723 FAX 0279-54-8603

◆ 仙台営業所 〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室 4-2-35 TEL/FAX 022-786-1406

URL <http://www.jouryoku.com/> E-Mail webmaster@jouryoku.com

国土緑化株式会社 製造販売元・産業廃棄物処分量・収集運搬業

ひとりとご明けておめどうございます。久しく途絶えていた読者からの投稿を掲載させていただきます。年齢は関係ない。今年こそ何か新しいことにチャレンジしたい。今年こそ何か新しいことにチャレンジしたい。今年こそ何か新しいことにチャレンジしたい。



勝野建設株式会社

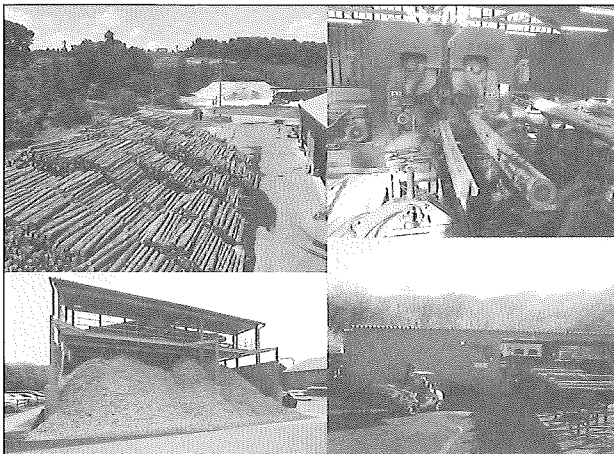
代表取締役社長 勝野 政和



本社 / 〒370-3608

群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田592番地

電話 0279(54)3551(代) FAX 0279(54)3494



A・B・C材全量一括・定額買取システムで
森林組合の集約化施業推進・素材生産量増大を支援!!



群馬県森林組合連合会
代表理事会長 八木原 勇治

本所 前橋市上大島町182-20 ☎ (027)261-0615(代)
渋川県産材センター
渋川市白井乙佐又1236-4 ☎ (0279)22-5000(代)

発行責任者 群馬県林業改良普及協会
印刷者 新井 雅博
杉浦印刷株式会社